Ｅーメンバーからの意見⑤(8 月 25 日現在提出分)
平成 22 年 8 月 27 日　公共施設再配置計画担当作成

Ⅰ　公共施設の再配置に関するアンケート結果

１　設問と回答

問１　なぜ「公共施設の再配置」が必要になるのか、ご理解いただけますか。

ア　よく理解できる　４名
イ　一部理解できる（一部理解できない）　２名
ウ　ほとんど理解できない

問２　「公共施設の再配置に関する方針【委員会からの提言】」の内容について、どのように感じていますか。

ア　非常にわかりやすい　３名
イ　ややわかりやすい
ウ　どちらでもない　１名
エ　やや難しい　２名
オ　非常に難しい

問３　「公共施設の再配置に関する方針【委員会からの提言】」は、「複合化などによりできるだけ機能を維持しながら公共施設の床面積を４０年間で約３０％減らす」ことを目標としていますが、このことについてどう思いますか。

ア　賛成である　１名
イ　どちらかといえば賛成である　３名
ウ　どちらでもない
エ　どちらかといえば反対である　２名
（ただし、１名はもっと目標値を上げるべきという意見）
オ　反対である

問４　「公共施設の再配置」が進むことについて、どのように感じますか。

ア　大いに期待している　４名
イ　やや期待している　１名
ウ　どちらでもない
エ　やや不安がある　１名
オ　大いに不安がある

２　自由意見

No.１　男性　５０歳

・　肝心なのは、「のっぴきならないところまで来ている深刻さがどれだけ伝わるか」ということと、組織横断的に「誰がどれだけのリーダーシップで行えるか」にかかっていると思います。

「集中と選択」による具体的な公共サービスのビジョンが示されないと、利害の対立に終始して“総論賛成、各論反対”ということになりかねません。

問３の聞き方ですが、「複合化などにより・・・公共施設の床面積を４０年間で約３０％減らす・・・」ですが、そもそもどの施設をどのように複合化するのかがイメージできず、また４０年間で３０％と言っても、１０年ずつ段階的なのか、年度によって削減に濃淡があるのか、などの具体的な道筋がイメージできにくい段階では、こういう聞き方はちょっと漠然としている気がします。

一般論として、４０年後といったら、現在の公共施設利用者は中・高年齢者、場合によっては亡くなっているかも知れません。

そのはるか先のことについて、“３０％削減です”と言っても、到底イメージできにくいと思います。

ただ漠然と「公共施設削減＝サービス低下」というイメージの元に、「だから反対」と短絡的な解釈に陥ってしまうのはある意味仕方ないことかも知れませんが、もう少し具体的な（市民生活に直結する直近の「集中と選択」の）提示で、“明日にでもこうせざるを得ない状況ですよ、４０年後はこういうことが加速しますよ・・”という説得材料が必要かと思います。

No.３　男性　６６歳

・　立派な方針案だと思います。将来の予想数値を見ると、「第二の夕張市」になるのではと心配しています。方針１を大原則に、今、早急に荒療治が必要と痛感しています。（削減目標は、40～50%くらいが望ましい）

一刻も早く窮状を脱出すべく、現状を市民にもっと浸透させることも必要かと思います。（広報、タウンニュース等）

『若い人に（子らに）負の財産を残さぬ』ように！

No.５　男性　７１歳

・　委員会の提言の内容や議事の流れ等、やや不鮮明

No.10　女性　６２歳

・　公共施設によっては利用者が一定金額を負担する事も必要と思いますが、公民館などはコミュニケーションや生涯教育その他の場として今以上に多くの市民に利用してもらえる工夫が大切と思います。収入

の少ないものにとって施設料は負担です。人への無関心による所在不明が連日マスコミを賑わしています。市民が家に引きこもることなく、その能力も活かしながら外で元気に過ごせるような機会を提供する公共施設になって欲しいと思います。

№４　男性　４９歳

・　この方針を読んで感じた感想を箇条書きで書かせていただきます。

１　歳入が少ないのには市側にも責任があると思います（無策）。「秦野」の強みを生かした歳入増の方策を考案する責務があると思います。

２　幼稚園児数と保育園児数の逆転は時代の変化に行政が追い付いていないことを表しています。つまり、ライフスタイルの変化です。母子家庭・父子家庭や共働きが増えていることの証ではないでしょうか。子供を預かってくれる施設が求められているのです。それに対応することが、働きやすく、子供を育てやすい街造りになり、将来的に住民増→歳入増へつながるのではないでしょうか。

３　施設使用料はどういう根拠で設定されているのか。算出の根拠となる概念やルールはあるのか。恐らく、その都度個別に算定されていると思われ、他施設との整合性が取れていないのでは。

４　当市の歳入不足は構造的なもの。例えば、厚木市は大学施設や大企業の誘致、鎌倉市は高所得者と観光で歳入増。では、秦野は何で稼ぐ？強みを磨く必要がある。

５　新しいハコモノには「構造」が大切。太陽光を多く取り入れること。太陽光パネルの採用などで省電力仕様。そして、ハコモノ自体をサスティナブルにし、100 年耐えうるものに。

６　前期実行プランの検証評価は毎年（または半年、四半期で）行うべき。「決定後の状況が想定したとおりに進展することは少ない。最善の意思決定さえ思わぬ障害にぶつかり、あらゆる種類の意外な事態に出会う。しかも、最も優れた意思決定さえ結局は陳腐化する。したがって、実行の成果からのフィードバックがない限り、期待する成果を手に入れ続けることはできない。」（P.F.ドラッカー）

№６　女性　５４歳

・　公共施設の問題点についてはよくわかりましたし、再配置は必要なことだと思います。が、単に減らすという形以外に検討できる項目はないのでしょうか。40 年という長い期間をイメージすることは難しいのですが、その時には私自身も健在である可能性は少ないと思いながら、少しでも社会との接点を持てる場所がある事を願っています。また、市民に理解を求める方法としてホームページだけというのは、一部の人のみを対象にしているように思います。

Ⅱ　前回までの委員会の討議内容に対する意見

№１　男性　４９歳

『第８回検討委員会の内容を拝見しての意見として』

提言内容の各機関への結果報告について

各機関の意見をみると、やはり、「総論賛成、各論反対」というニュアンスが見受けられますが、その中で社会教育委員会（以下、委員会と呼称）の意見は、個人的な感想としてはかなり旧態依然とした発想に凝り固まっている気がします。

まず、①の意見によれば、公共施設（ハコモノ）があるから生涯学習ができる、というような印象を受けますが、これこそ何も分かっていない、あるいは理解が足りていないと思います。

「集中と選択」によってハコモノの優劣を決めるという時代の趨勢（あるいは秦野市の将来に向けた時代的必然性）に対して、“古い考え”と言うあたりが誠に奇異に映ります。

それと、生涯学習と義務教育の関係ですが、そもそも生涯学習というのは、“生涯に渡って行う学習活動”であり、その中には学校教育も入るし、学校外の社会の中で仕事に関わる学習や、豊かで充実した人生を送るための学習など、家庭、学校、職場、地域社会すべてにおいての学習を生涯学習と捉えることができるので、当該委員会が言っている“義務教育を受けられない人向けの生涯学習”という観点は必ずしも正しくありません。

これは恐らく、平成１１年６月９日　生涯学習審議会答申「学習の成果を幅広く生かす」で述べられている理念を踏襲した考えと思いますが、これは、“全ての人に学ぶ意欲を身に付けることで自己実現を目指しましょう”と言っている中のひとつの例として挙げているのであって、委員会は専ら“義務教育を受けられない人向けの・・”と喧伝していますが、そういうことではありません。

ただ次の点は重要です。

生涯教育は、「原点は家庭教育」であり、「基礎を培うのは学校教育」、「自己を表現するのが社会教育」、そして「人間を磨くのが企業内教育」と言われます。

今まで教育といえば「学校教育」を指していましたが、これからは“学歴ではなく学習歴”すなわち、人間の評価として“何を学んだか・何ができるか・何を身につけたか”という内容の評価が重要となってきています。

この４つの生涯教育の中で、ハコモノが関わってくるのは「社会教育」の部分ですが、同時にこれは学習歴とも密接に関わってきます。

要は、「自己表現に寄与する社会教育の場」をいかに提供するかということですが、従前のハコモノの体制は今後不可能なわけで、（あくまでも「集中と選択」という前提で）その代替施策を当該委員会と一緒に考えていくことは必須と思います。

ハコモノありきで社会教育ができる、という発想に対して、転換を図ってもらわないといけないと思います。

これは、「秦野市としての社会教育のあり方」を再確認するいい機会かと思いますが、ハード（ハコモノ）にソフト（教育カリキュラム）がくっ付いてくるのではなく、ソフトという土台があってそれにどうハードを組み合わせるかの模索が必要かと思います。

②の意見では、「文部大臣賞受賞の優秀な公民館」と言っていますが、だからといってそれが存続の理由にはならないと思います。

その（優秀な）公民館でさえ、財政ひっ迫の要因のひとつとなっていることを理解すべきです。もはや、“優秀な云々”で残す時代でなくなってきていると認識すべきです。

また、盛んに「秦野市民の文化」「文化程度」という言葉が出てきますが、そういうレベルを推し量る指標を持っているから言っているのかと思いますので、これについては逆にその内容を委員会に対して知りたいと思います。

“秦野市民の文化って一体何？”という疑問が涌きます。

③の意見はあり得るかも知れません。

危惧するのは、今回のＥメンバー募集に際しては１０名の方が選出されましたが、

検討委員会の内容についての意見は毎回ほぼ同じ人で固定されており、Ｅメンバーというフレキシブルな意見環境を与えられているにも関わらず、参加の機会が見受けられないのは残念であり、市民委員としての代表性にも疑問を呈することにもなりかねません。

入り口から現在まで、有識者の発言及び専門的資料に終始したので、（Ｅメンバーにはなってみたものの）しり込みした部分があるかも知れません。

これからは、パブリックコメントからの意見も出てきて、それも踏まえて“肉付け”されるものと思いますが、抵抗勢力も大局的な観点で「これからの秦野のあり方」が分かるような報告書になることを期待します。

以上、雑駁でありますが、「第８回検討委員会」の内容を拝見しての意見です。